

老健いばらき

第51号

2017.9.1



常陸大津の御船祭(北茨城市)

写真提供：北茨城市役所 まちづくり協働課



北茨城市イメージキャラクター「こうちゃん」

北茨城市大津町にある佐波波地祇神社の春の大祭で5年に1度行われる「常陸大津の御船祭」は今年、国の重要無形民俗文化財に指定されました。この祭りは巨大な神船がソロバンと呼ばれる滑走材の上を500人の曳き手により曳かれ、陸上を渡御するという全国にも類を見ない勇壮な祭りです。次回の開催は平成31年5月2、3日です。

発行所／一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会
 発行人／平成園 小柳賢時

編集人／かすみがうら
 編集／田尻ヶ丘ヘルシーケア
 鹿野苑
 プラタナスの丘
 シニア健康センターしおさい
 つくばリハビリテーションセンター

大場 正二
 石川 達也
 熊坂 裕吾
 大曾根 卓
 児島 強
 市原 健一

会長 挨拶

一般社団法人
茨城県介護老人保健施設協会

会長 小柳 賢時

老健を取り巻く状況は、人口構造の変化による人材不足、国の1200兆円を超える借金、消費税をアップすることが出来るかどうかによって変化する社会保障制度に影響を受けています。

茨城県においても介護保険料が、平成12年には、平均2,400円であったのに対し、平成27年には5,200円に増え、今後更

に上昇していくと考えます。そのため、社会保障目的税や保険料のアップにより、保険者からはサービスの質の向上が求められます。

今回の介護保険法の改定では、介護医療院の創設と老健はリハビリを提供し、在宅支援・在宅復帰の施設であると明記されました。今後、県内において、在宅強化型・加算型の老健が増えていくことを期待します。リハビリにおいては、筋力リハビリだけではなく、介護による「活動」「参加」というようなリハビリも、医療と情報の共有のなか、進めていく必要があります。各地域の取り組みに期待します。口腔・栄養ケアにおいては、管理栄養士だけではなく、管理栄養士とSTの組み合わせが良い効果を導くとも言われています。また、多職種協同による看取りも地域で考えていくことも大切と考えます。

認知症に対しては、早期診断・早期対応が大切です。診断だけをして、まだ問題行動が少ないからといって対応を怠ると、症状が悪化してから急に施設や精神病院に対応を求められても対応が困難となりやすいため、個々の特性・行動を、早期から関わっていた方が対応の方法を考えやすいと考えます。7月には、第7期いばらき高齢者プラン21推進委員会が開催されましたが、認知症疾患セン

ター・認知症サポート医・サポーターの活用方法が構築できればと考えております。

人材不足については、昨年暮れに各施設の皆様を協力頂き、アンケートをとったところですが、その内容につきましては、全老健の機関紙5月号にまとめさせて頂きました。アンケートに協力を頂きました各施設の皆様には、この場を借りてお礼を申し上げます。残暑が続く中、各施設の方々のご健康を祈り、挨拶とさせて頂きます。

ご挨拶

茨城県保健福祉部長
寿福祉課地域ケア推進室

室長 石川 仁

このたび、長寿福祉課地域ケア推進室長に就任いたしました石川仁でございます。どうぞよろしくお願いたします。

茨城県介護老人保健施設協会会員の皆様方には、日頃から高齢者保健福祉の向上並びに介護保険制度の円滑な運営に多大なご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

我が国は、世界に例をみないスピードで高齢化が進行しており、介護サービスを必要とする高齢者も増加しておりますが、いわゆる団塊の世代全てが75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれております。

このため、厚生労働省においては、2025年を目的に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

このよつな中、本県では「第6期いばらき高齢者プラン21」に基づき、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実

現を政策目標に掲げ、その実現に向かって積極的な施策展開に努めております。

地域包括ケアシステムの構築にあたり、介護老人保健施設が果たされる役割は大きなものがあります。介護、医療ともに在宅復帰に向けた流れが強調されるなか、多職種からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰を支援すること、また安心して自立した在宅生活が継続できるよう、入所や通所・訪問リハビリテーションなどのサービスを提供すること、さらに地域と一体となったケアを積極的に担うことなど多岐にわたる機能を期待されているところでです。

結びに、今後とも本県の高齢者行政の推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協会の益々のご発展をご祈念いたしまして、挨拶いたします。

理事就任のご挨拶

すみれ

施設長 石本 祐子

この度、平成29年5月の理事会において承認いただき理事に就任させていただきました「すみれ」の石本祐子です。

老健すみれは、県央地区の笠間市にあり、平成18年6月に開設しております。当施設は石本病院の併設施設として、地域に密着した施設であるように日々努力させていただいております。私自身は開設当初より、すみれに携わらせていただき、高齢者に対する保健、医療を日々勉強させていただいております。

老健協会におきましては、年に1度の研究発表会に毎年参加させていただいております。ここ数年は2演題を1年かけてスタッフと共に取り組んで発表しております。参加する事により、スタッフと共に成長する事ができ、また他施設の発表より、他施設の熱意、取り組み、考え方、努力等々が見られ、沢山の刺激を受けます。今後も引き続き参加させ

ていただきたいと思います。

超高齢化社会に突入した事に伴い、介護を必要とする「要介護高齢者」の数も増加し、そついった方たちのケアを今後、いかに担つていくかが社会問題になっております。その中の介護老人保健施設の役割はとて大きなものと思われます。老健施設では、当たり前ですが、このように多職種がいる施設はありません。また、何かの職種が上というのもありません。皆で協力して連携して、1人の利用者さんにサービスを提供する施設もありません。本場に素晴らしい施設だと思ひます。

来年は介護報酬と診療報酬の同時改定です。前回よりも大変厳しいものになると言われています。その中で、私たちが出来る事、利用者さんがその人らしく生活でき、その人の人生ができるようなサービスを、どこまで出来るか分かりませんが、スタッフと共に日々サービスを提供出来るように精進していきたいと思ひます。また、このようなサービスを支えるスタッフも大切な存在です。彼らの仕事の頑張りや、仕事に対して誇りが持てるよつなサポートが出来たらと思ひます。

このよつな大役は、初めての経験で不安な面が多々ありますが、皆さんのご協力を頂きながら、精一杯精進していきたいと思ひます。何卒、よろしくお願ひ致します。



理事就任のご挨拶

つくばリハビリテーションセンター

理事長 市原 健一

今期から、茨城県介護老人保健施設協会の理事に就任する事になりました。

以前は、施設長の鈴木医師が理事を務めさせて頂いておりましたが、退職された為、市長を退任後、再び私がお引き受けした次第です。

12年間市長という役を務め、医師とは違つた少子高齢化対策や、災害対応、地域活性化、教育等種々な経験をしました。

その中でも特に、2011年に発生した東日本大震災、翌年の2012年につくば市北部をおそつた竜巻災害といった大災害に見まわれた経験は忘れる事の出来ないものです。その際、周辺の地域には高齢者世帯や一人暮らしの高齢者が多数生活されており、それらの方々に災害時のみならず、日常いかに対応していくかが必要であると実感しました。

その様な事から、3年程前からつくば市は、社会福祉協議会（6月まで会長をしておりました）と市、地域が協力しあい、「地域見守りネットワーク」を構築し、高齢者等を地域全体で見守る事業を立ち上げました。

つくば市全体では、高齢化率は19%台と全国平均、茨城県平均に比べて低い値ではありませんが、合併前の旧市街地や農村部では、高齢化率は35%を越し、大きな問題になっています。

現在私は、内閣府の『高齢者対策の基本的在り方等に関する検討会』の委員に推薦され出席しております。高齢化の現状を踏まえ、取り組むべき課題等について議論をしています。

特に検討が必要と考えられるものとして、高齢者の就業、生活基盤、暮らしの質の向上、介護施設の充実、更にこれらの評価等が話し合われます。

高齢者の移動手段や、介護人材の確保等、いくつかの点において指摘させて頂き、先日の会議では高齢者の就業、就労について、シルバー人材センター、ボランティアの公的支援や後継者育成等について述べさせて頂きました。今後も各課題ごとに議論をしていきたいと考えております。

今後も茨城県介護老人保健施設協会に少しでも貢献出来る様、協力して参りますので、よろしくお願ひ致します。

厚生労働大臣

表彰の受賞にあたって

介護老人保健施設 大宮フロイデハイム

施設長 鈴木 寿理

この度は厚生労働大臣表彰を頂き、誠にありがとうございます。

私のような者がという戸惑いもありましたが、職場の仲間を代表して受賞させて頂くことで皆と喜びを分かち合いたいと思っております。

茨城県の東北にある介護老人保健施設大宮フロイデハイムは平成8年3月に開設され、開設時より施設長として21年間勤めてきました。

この間のいろいろな事がありましたが無事に乗り切れたのも、仕事仲間にお恵まれ、皆に支えて頂いたからこそと思っております。

学生時代には学ばなかったリハビリテーションや介護福祉の分野は、入職してから一つ一つ学んできました。特に介護老人保健施設では医師、看護師、介護士、相談員、ケアマネージャー、栄養士、リハビリスタッフなど全職種が力を合わせて一つのチームとなり、利用者の生活を支えていくことが大切であることを学びました。

また、人生の大先輩である利用者の方々との様々な出会いは、沢山のことを教えてく

れ、私にとって貴重な経験となりました。

これからも利用者の方々との立場に立つて考え、寄り添い、その人らしい人生を送るために支援していけるよう、また新たな気持ちで取り組んでいきたいと思ひます。ありがとうございます。

全国老人保健施設協会

表彰の受賞にあたって

介護老人保健施設

かすみがうら 理事長 大場 正一

平成29年7月に第28回全国介護老人保健施設大会愛媛in松山において、このような表彰を受けたことは、身に余る光栄であります。

同時に当施設の松井とも子さんと村上雄大さんが発表した、「まさか」の不安をヤル気にかえて「熱中度100%」が優秀奨励賞に選ばれました。

私は自分のことより、当施設の職員がこのような素晴らしい受賞をさせて頂き、感謝すると同時に、この受賞が全職員の喜びとやる気を引き起こすものと思ひます。今回の受賞に当たり、茨城健の小柳賢時会長と事務局の皆様方に厚く御礼申し上げます。

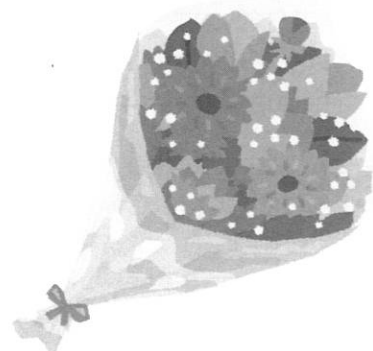
思い起こせば、当施設を行方市に開設したのは平成17年3月1日です。水戸市にある大場内科クリニックを開設したのが平成16年2月1日なので、丁度その一年後に当施設を開設したということです。今回思いがけずこのような素晴らしい表彰を受けたことは、身に余る光栄であると同時に気の引き締まる思いであります。

私は長年、腎臓病と透析医療に従事して参りました。近年、高齢化した透析患者さんの受け入れ先が社会問題になっており、この問題に対して自分が受け皿にならなければならぬと強く考えました。直ぐに透析施設の建設を考えましたが、当施設の隣に土地はある

ものの、下水道が来ていませんでした。下水道を作ることを計画しましたが工事の許可が下りませんでした。その後断続的に下水道の工事計画を立てましたが結果は同じでした。その後、10年経つてようやく下水道の工事の許可が下り、当施設に隣接する形で平成28年4月25日に大場内科玉造クリニックを開設しました。近隣で透析施設がなく困っていた透析患者さん方は、各地から転院して来てくれました。それと同時に当施設「かすみがうら」は高齢化して透析に通えなくなった患者さんや病院から退院を余儀なくされた患者さん達の受け入れ先になっております。患者さんたちは透析中のリハビリや透析前後のリハビリ、非透析日のリハビリに力を入れられイルや口コモの予防を行っております。

今後は、透析患者さんの当施設でのリハビリと同時に、在宅での訪問リハビリテーションに力を入れてゆきたいと思ひます。我々は透析患者さん以外に介護老人保健施設として地域における社会的使命を忘れることなく、その使命に取り組んでゆきたいと思ひます。

最後に、茨城県介護老人保健施設協会役員としても小柳会長を支えてその発展に寄与してゆきたいと思ひます。



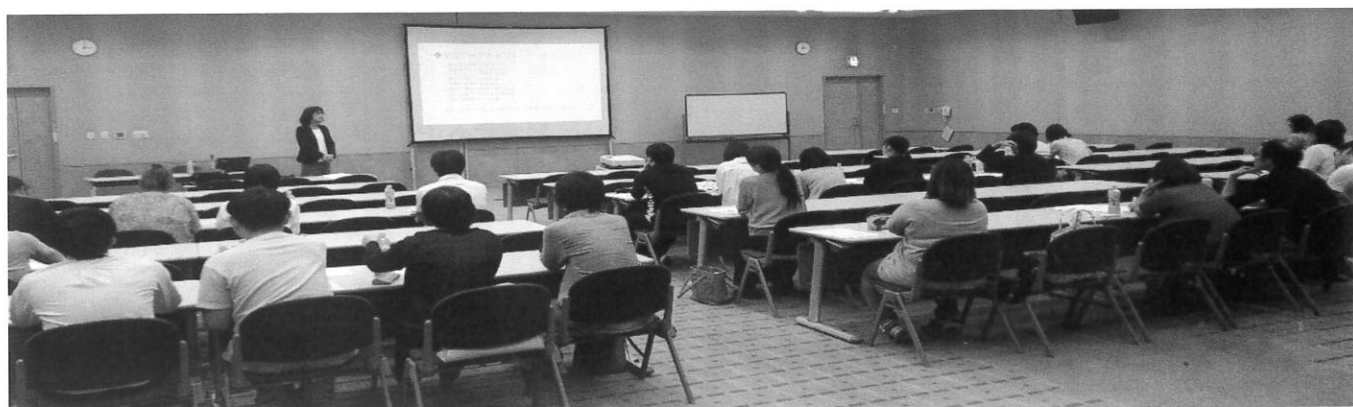
看護・介護専門委員会 研修会報告

委員長 サンライズ湊 砂押 佑

平成29年6月26日につくば国際会議場にて、講師に「ケアビューティフル 代表取締役 山本 陽子氏」をお招きし、「対人援助職のストレスマネジメント」について研修会を行いました。講演では、ストレスについての基礎知識から、対人援助職としてストレスを感じやすい場面があるのか等、様々な事を学ばせて頂き、ストレスマネジメントでは、自分を知る（自己理解）・職能（心構え・知識・技術）・相手を知る（接遇・傾聴）・職場環境（報告・連絡・相談）があり、その中心に自分の居場所があるという事を教わりました。

また、今回の研修会では、グループワークも行いましたが、多数の施設との意見を交換する事ができ内容の充実した研修会を行う事が出来ました。

今年度は10月頃にも研修会を予定しております。ご多忙とは存じますが、専門職の知識・技術を高める場として、多くの方のご参加をお待ちしております。

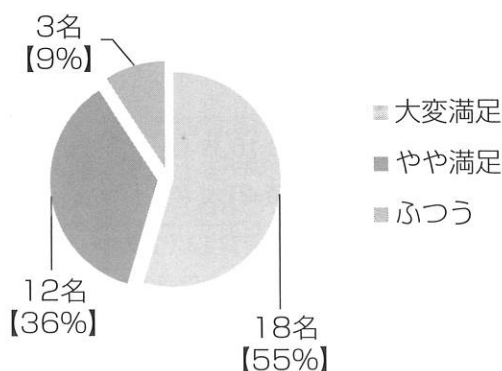


平成29年6月26日 第1回 看護・介護専門委員会 研修会アンケート集計結果

参加者構成：出席者 35名中、アンケート回収 33名
（管理・監督者 3名、従業員 30名）

研修評価

今回の研修会はいかがでしたか？	人数	割合
大変満足	18	55%
やや満足	12	36%
ふつう	3	9%
やや不満	0	0%
非常に不満	0	0%
合計	33	100%



- ・改めてストレスマネジメントについて考える機会を得られた。
- ・ストレスについての研修会が初めてだったため、詳しく知ることができてよかった。
- ・ストレスについて考える機会ができ、施設内で何をどうモチーフに聞いていくのがよいかヒントになった。
- ・具体的な対応策が多く、情報量が盛りだくさんだった。
- ・忘れていたこと、これから活かせるものなど、学ばせて頂きました。ありがとうございました。
- ・ストレスに関しての様々な要因を知ることができた。
- ・聞きやすかった。分かりやすかった。

栄養専門委員会 研修会報告

委員長 つくばリハビリテーションセンター 高橋 歩美

平成29年6月9日に「糖尿病の栄養管理について」、「腎臓病の栄養管理について」、「低栄養の栄養管理について」の3つをテーマとして、第1回栄養専門委員会を開催しました。(株)明治メディカル栄養営業部学術グループより3名の講師の方へ講演を依頼し、35施設37名のご参加を頂き無事に終わることが出来ました。

各疾病について基礎的な部分から疾病の原因や身体の仕組み、栄養管理について学び、自身の知識を再確認することが出来たとともに、今後のアセスメントへも役立たせることが出来る研修会になったと思います。疾病について基本的な部分から講義していただく機会はなかなかない為、うろ覚えな部分を再確認する良い機会だったと感じています。

午後のグループワークは、各地区の方がグループ内に1人入るように分け、6人ずつのグループへ分かれて実施しました。グループワークの中で症例検討も行い、各グループ症例データから読み取れる問題点や兆候症状、原因から必要だと考えられる支援内容を話し合いました。複数の意見を聞くことで、自身では気づけなかった問題点や支援内容を知ることができ、今後の業務へ活かすことが出来ると感じています。また、日常業務での悩みや、他施設での取り組みについても討議しました。今回の研修会は講義、グループワークともに、とても有意義な時間となりました。

当委員会では、栄養士としての知識を高めることだけで終わることはなく、身に付けた知識を現場で活かすことができるような実用的な研修会を開催していきたいと考えております。また、多職種連携での業務の中、日々の業務の中で栄養士ならではの悩みや、他の施設の栄養士はどうしているのか、など不安に思っていることはありませんか？当研修会は、ただ知識を高めるだけでなく、栄養士同士でその悩みを共有・解決できるような場でありたいと考えています。日々の業務の中お忙しいとは存じますが、ぜひ研修会にご参加頂きますよう、ご協力をお願い申し上げます。

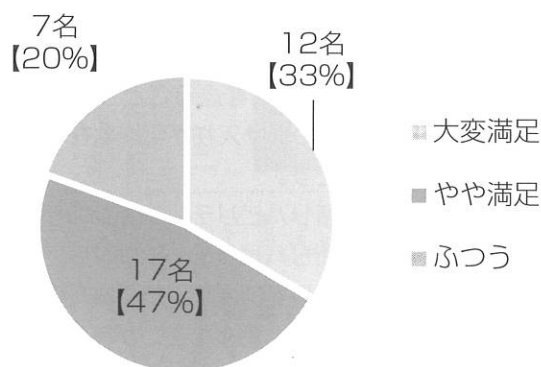


平成29年6月9日 第1回 栄養専門委員会研修会アンケート集計結果

参加者構成：出席者 37名中、アンケート回収 36名
(管理・監督者 6名、従業員 29名、その他 1名)

研修評価

今回の研修会はいかがでしたか？	人数	割合
大変満足	12	33%
やや満足	17	47%
ふつう	7	20%
やや不満	0	0%
非常に不満	0	0%
無記入	0	0%
合計	36	100%



- ・糖尿病、腎臓病等、再確認ができた。
- ・DM、CKDの勉強ができ、他施設と意見交換が出来た。
- ・復習になった。また、今後の栄養管理に活かせる内容で勉強になった。
- ・講義内容は細かく分かりやすかったし、ディスカッションも他施設の状況が聞けて勉強になった。
- ・今までの知識の再確認と、知らなかったことも3人の講師の先生方の話し方、資料、スピードとも分かりやすく良かった。ありがとうございました。

老健施設に求められるもの

介護老人保健施設すみれ
事務長補佐 川井 祥久

当施設は、笠間市にある平成18年に開設された病院併設の介護老人保健施設です。私は、平成22年に入社し今に至っております。

2025年には国民の3人に1人が高齢者という超高齢社会に突入する為、地域包括ケアシステムの整備が急務となり、そのような中、当施設においては新しい事業として笠間市より総合事業の委託を受け「元気すこやか教室」（運動、栄養等を中心とした体操教室）を開設しました。事業対象者は市内の65歳以上の方であり、事業対象者～要支援2までの方がご利用となります。介護予防から介護を要する状態の方まで、老健施設の特性である多職



種協働を生かし、これからの地域包括ケアシステム構築の一翼を担えるよう、地域と連携し行っています。施設内での取り組みとしては定期研修の実施、接遇委員会の設置、地域交流の場の提供、職場環境を整える会を設置し、職員の働きやすい環境づくり、技術の向上を図る事で、利用者様へより質の高いケアが提供出来ると考えます。これからも様々な取り組みを行う事で、利用者様もスタッフも明るく楽しい職場作りを目指し取り組んでいきます。また、今後ますます職員の確保、介護報酬の改定等、状況が厳しくなる中、市場環境に迅速に対応出来るよう対応してまいります。



皆で支えるデイケア

鹿野苑 通所リハビリテーション 主任
介護福祉士 橋本 淑郎

鹿野苑は、鹿島灘を望む高台にあり、海と緑を存分に吸収しながら充実したリハビリ生活を送ることができる、ベッド数100床、通所120名の受け入れが可能な在宅復帰強化型の介護老人保健施設です。

私は介護福祉士として通所リハビリテーションの仕事に携わっています。当苑の通所リハビリテーションは、1日平均100名の利用者様が来苑しています。たくさんの利用者様が来苑されているので、日々色々なことがあり、新鮮に感じることも失敗して力不足を感じることもあります。スタッフにもそれぞれ長所と短所があり、性格も年代も違います。全て上手くできる人なんてもちろんいないので、一人一人の長所を活かし、部署を越えてお互いに助け合える環境作りが大切だと常に感じています。来苑される利用者様の笑顔と「ありがとう」の一言で、スタッフ一同、充実感とやりがいを持って毎日仕事に取り組んでいます。

今後もスタッフ同士がお互いにサポートし合い、共に成長し安心して仕事を続けることができる職場環境を目指していきます。さらに、利用者様がご自宅での人らしい生活を送ることができるよう、そして楽しく来苑していただけるよう、今まで以上に安心・安全なサービスを提供していきます。また、私自身初心を忘れず、向上心を持って日々邁進していきたいと思っております。



施 設 紹 介

「セントラルゆうあい」は入所100名（一般棟60名・認知症棟40名・ショート含む）、通所リハビリ（現在60名）の施設として平成9年牛久市柏田に開設しました。

当施設では平成26年以降在宅復帰率35%以上を維持しており、平成29年8月より在宅復帰強化型施設として運営を行っています。今後も在宅復帰率の維持に向けて、施設ケアマネジャーがご家族に対して入所直後に面談の機会を設けており、より早期から自宅退所に向けたサービスの検討や相談を行っています。また、より地域に根ざした「在宅復帰」を目指し、在宅ケアマネジャーと連携をこまめに行い、入所によって途切れることのない支援を心がけています。

当施設ではリハビリスタッフ配置が充実しており、短期集中リハビリの介入以外にも退所前後訪問等の家屋評価を積極的に実施しています。家屋評価で得た情報を元にリハビリスタッフから介護職員へ施設内で行える生活リハビリのメニュー内容の指導を行い、ご自宅の環境を踏まえてリハビリプログラムの提供を工夫しています。

また、介護現場では、排泄や食事など家族介護教室の定期的な開催と、個別の要望に応じた介護指導も随時行い、ご家族の在宅介護の負担軽減に向けて支援しています。

今後も、よりいっそう各職種が一体となって地域に根ざした在宅復帰への取り組みを行い、在宅復帰強化型施設の維持を目指してまいります。今後とも宜しくお願い致します。

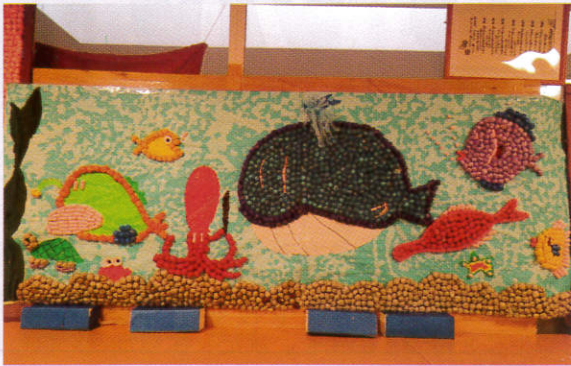
（施設ケアマネ 西川千里）



医療法人 つくばセントラル病院
介護老人保健施設 セントラルゆうあい

茨城県牛久市柏田町1590-3
TEL：029-872-8833
FAX：029-874-2418

プラタナスの丘 (常陸大宮市)



●「プラタナス水族館」

デイケアのご利用者さんと一緒に作りました。
夏祭りのゲームでピンボールとしても活用しました。

つくばリハビリテーションセンター (つくば市)



●花が咲く

デイケア利用者様の作品です。
折り紙で作った花や傘はとてきれいで可愛らしく人気の作品です。
後方の風景画は、利用者様が一针一针心を込めて作り上げた刺繍作品です。完成を目標に、少しずつ描かれる刺繍画を楽しみに通われていました。完成時には、ご本人様と共に他利用者様や職員も喜びを分かち合いました。
作業活動を通してご利用者様同士の会話も弾み、いつも笑顔の花が咲き、笑い声が響いています。

みんな

かすみがうら (行方市)



●七夕飾り

近隣の園児たちと一緒に七夕の飾りつけを行いました。
一緒に作った飾りや、ご入所者が書いた短冊を園児たちに飾ってもらい、立派な七夕飾りが出来上がりました。
元気いっぱい園児たちの姿に、ご入居者の皆様の顔もほころび、中には涙ぐんでしまう方も。たくさんの元気を頂き、楽しい時間になりました。

まくらかの郷 (古河市)

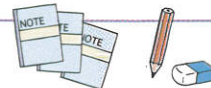


●今年は「酉年」!!

当施設のデイケアには、利用者主体の様々なクラブ活動があり、昨年よりその年の干支にちなんだ「ちぎり絵」を折り紙クラブのメンバーが協力して作っています。
年明けに間に合うように数か月前から構図を考えたり、配色を考えたり、折り紙を千切ったりと皆でわいわいと完成図を想像しながらの作品作りは笑顔が広がります。
今年は酉年なので、とても可愛い鶏の作品になりました。

のた場

— 編集後記 —



本来ならば2019年に開催予定の御船祭ですが、今年3月の国の指定を記念して5月に臨時開催されました。会場には県内外から15万人もの観客が訪れました。編者の私も初めて見ましたが、その迫力には圧倒される思いでした。
また、北茨城市のイメージキャラクター「こうちゃん」は、釣られた漁師の「あんちゃん」と同居し、野口雨情、岡倉天心を尊敬する明るく、ひょうきんな男の子です。

一般社団法人 茨城県介護老人保健施設協会

水戸事務局
水戸市千波町1918 (月・金9:00~13:00)
TEL. 029-291-5376 FAX. 029-291-6057

平成園
古河市旭町1-17-39 (左記以外時間帯対応)
TEL. 0280-31-5998 FAX. 0280-31-7767